

## 面接成功ガイド ～ 面接で後悔しないための事前準備のポイント

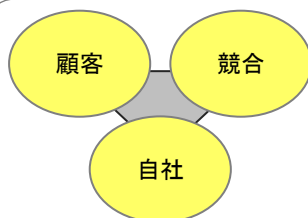
面接とは、採用する側とされる側が対話を通じて関係を構築する場であり、その内容に応じて合否の判定がなされます。「短い時間」で相互理解と不安解消を図るのは想像以上に難しい作業です。そのため、実力はあるのに面接で思うようなパフォーマンスができずに不合格になってしまうケースも多いもの。そうならないためにも適切な事前準備を行って臨むことが大切となります。

### ■企業理解と自己理解の深さが面接の成否を分ける

面接には勝ち(合格)・負け(不合格)があります。『彼を知り己を知れば百戦殆うからず』という言葉があるように、面接で勝利を収めるには相手企業と自分自身の両方を深く理解することが重要です。

#### ○企業理解のポイント

- 1、3Cフレーム = Customer(市場・顧客)・Competitor(競合)・Company(自社) で企業を見る



顧客は誰か(どこにいる、どんな人？ 属性は？ 顧客のニーズは？)

顧客は何を買っているのか(商品・サービスの特徴、顧客にとっての価値)

競合は誰か。競合との差別化ポイントは？マーケット内でのポジショニングは？

自社の顧客価値を生み出すための組織特性や業務プロセス上の強みは？

- 2、業界の動きをとらえる

顧客の変化、同業者・仕入先の変化、新規参入者・代替品登場、技術革新、国際情勢・法・ルールの変化など

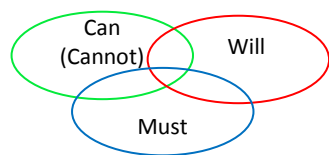
- 3、財務諸表上の事実を見る。たとえば収益性・安全性・成長性・効率性等の観点から。その背景もおさえる

- 4、経営理念や社史・沿革から企業の価値観をとらえる。またそれらが反映された仕組みや制度・組織を確認する

- 5、募集背景を考える。これまで見てきたポイントを踏まえ募集の背景や採用者への期待値をイメージする

#### ○自己理解のポイント

- 1、Will・Can(Cannot)・Mustで考える



Will = 自分がやりたいと思うことはなにか

Can = 自分にできることは何か、逆にできないことは何か

Must = 自分がやるべきことは何か、価値を感じることは何か

- 2、「いちばん」の経験を紐解く

これまでの人生の中で、いちばん頑張ったことは何か、いちばんつらかったことは何か

いちばん楽しかったことは何か、いちばん輝いていた時期はいつか、人生最高の瞬間と思えた出来事はあるか

- 3、過去の「節目」について考える

進学や就職時の選択のあり方。過去の修羅場をどう乗り切ったか。異動や昇進等の機会とどう向き合ったか。それぞれの「節目」で大切にしてきたことは何か。どういった価値観に基づいて選択してきたか

- 4、転職の目的を考える。今回の転職で実現したいことは何か、何のために転職するのかをあらためて見直す。

○上記の観点を踏まえ、企業と自己との「接点」を見出します。その接点が転職先としてその企業を選択する「理由」につながります。面接の準備は、そこを明確にするとところからはじまります。企業・自己それぞれに対する理解が深ければ深いほど、転職理由も明確になりますので、面接前に何度かこの原点に立ち戻って、深堀りして考えてみてください。

## ■企業の立場に立って 面接を想定してみる

- ▼自分が採用担当者として自分自身を面接するとしたら…と想像してみます。
- ▼面接官として「どのような点を不安に思うだろうか」「どのようなことを知りたいと思うだろうか」などをイメージします。
- ▼それら確かめるためにどんな質問をすべきかを考え具体的に書き出します。
- ▼そして、自分で考えた質問に自分で答えてみます。
- ▼一問一答ではなく、自分の答えに対して、面接官の立場で突っ込みを入れます。
- ▼一人二役で上記を繰り返し、イメージトレーニングを重ねましょう。  
(もし周囲に協力してもらえる人がいる場合は、役割交代しながら練習するのも効果的です)

## ■一般的な面接の流れとその対策

| 面接の流れ   | 代表的な質問                                                                                                                                                               | 留意点                                                                                                                                                |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入      | <ul style="list-style-type: none"><li>○面接にあたってどんな気持ちですか</li><li>○まずは自己紹介をお願いします</li><li>○現在の状況を簡単に教えてください</li></ul>                                                  | <p>『自己紹介』を準備しておきます。2～3分で簡潔に自己紹介ができるよう紙に書き出しておきます。時系列で伝えるとわかりやすくなります。また、求人内容に近い経歴に重点を置いて話をします。</p>                                                  |
| 転職理由の確認 | <ul style="list-style-type: none"><li>○なぜ転職するのですか</li><li>○退職理由を教えてください</li><li>○そもそもなぜ今の会社を選んだのか</li><li>○転職にあたって迷いはありませんか</li></ul>                                | <p>できる限り前向きに。単に「●●に不満」ではなく「●●を求めて」という姿勢が大切です。「自責」もポイント。全て周囲の環境や上司のせいにすることは避けましょう。「謙虚さ」も忘れずに。単なる“文句”にならないよう気を付けます。できる限り具体的に話し、抽象的な表現は避けましょう。</p>    |
| 志望動機の確認 | <ul style="list-style-type: none"><li>○なぜ当社に応募しようと思いましたか</li><li>○なぜこの業界を選んだのですか</li><li>○会社を選ぶ際に大切にしたいことは</li></ul>                                                 | <p>上記の転職理由との一貫性が重要。自身の人生の軸を明確にし、応募企業は「それが実現できるステージである」ということが志望動機を考える前提となります。また、企業研究を深めるほど明確にわかりやすく志望動機を整理することができます。</p>                            |
| 職務経験の確認 | <ul style="list-style-type: none"><li>○ベストジョブを教えてください</li><li>○強み・弱みをお聞かせください</li><li>○業務遂行上の課題はありましたか</li><li>○どのように問題を解決しましたか</li><li>○周囲とのかかわり方を教えてください</li></ul> | <p>過去の職務経歴についてできる限り「数字」に基づいて棚卸しをしておきます。相手が素人でも分かるよう丁寧に具体的に説明できるようにしましょう。ベストジョブ、成功エピソード・失敗エピソード、「節目」となった出来事などは特に力を入れて整理しておくとうれしいでしょう。</p>           |
| 業務理解の確認 | <ul style="list-style-type: none"><li>○当社の印象をお聞かせください</li><li>○この業界について気になることは？</li><li>○この仕事で大事なものは何ですか</li></ul>                                                   | <p>業界や職種についての理解度や見識を確かめられる場面です。事前に十分な研究をして臨みましょう。ただし「知ったかぶり」は禁物。わからないこと、できないことは正直に伝えましょう。</p>                                                      |
| 質問の時間   | <ul style="list-style-type: none"><li>○何か質問はありますか？</li></ul>                                                                                                         | <p>「特にありません」という無関心な回答は絶対に避けましょう。聞いてはいけない質問はありません。転職の判断に必要なことなら臆せず質問しましょう。ただし、質問には当人の関心事がそのまま表れます。「どのような事に関心を持つ人なのか」が試される場面でもあることを忘れないようにしましょう。</p> |

## ■面接の心構え

### 1、相手の質問の意図を汲むこと

話したいことを話すのではなく、面接官が聞きたいことに応えましょう

### 2、熱意が大切

同じ内容を話しても、熱意や意欲次第で評価に差が出てきます

### 3、謙虚さと誠実さをもって臨む

嘘・ごまかし・強がりなどは見抜かれます。また、突っ込まれるとボロが出てしまいます

### 4、自然体

頑張っても普段以上のものは出せません。肩の力を抜き、面接官と「よい関係をつくる」気持ちで

### 5、第一印象が肝心

話す内容(言語情報)よりも見た目など(非言語情報)の方がインパクトがあるものです。

### 6、結論から伝える

「私はこう思います」→「なぜなら●●だからです」という順番で話をします  
複数のことを伝えたい場合は「それには3つ理由があります」「1つ目は…」と伝えます

### 7、ホスピタリティを持つ

ひとつの質問に対し「ハイ」「イエエ」のみで答えるとコミュニケーションがブツ切りになります  
相手の立場にたって、相手が知りたいと思うことを慮って丁寧・親切なコミュニケーションを心がけましょう

### 8、相手に興味・関心を持って臨む

事前に企業や業界のことをよく研究し、複数の質問を準備して臨みましょう

### 9、自責のスタンス

過去の選択や出来事はすべて自分に責任があるという姿勢で  
特に転職理由を「人のせい」にすることは避けましょう

### 10、枕詞(まくらことば)で配慮を

「熟慮の末」「こんなことを言うてはいけないと思いますが」「自分勝手かもしれませんが」など  
同じことを言うのでも枕詞で印象が違います。相手への配慮にもなりますので意識してみましょう

### 11、企業選択の軸を持つ

面接は相互理解の場です。企業だけでなく応募者にとっても企業を「選ぶ」場です  
どのような点がクリアになれば入社を前向きに考えられるのか軸をもって臨みましょう

### 12、事前準備をしっかりと行う

大事な商談に準備なしで臨む方はいないはずですが  
準備の質はビジネスパーソンとしての力量を示すもの。面接官にも必ず伝わります